

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 1月 15日

事業所名 しあわせ駅早良

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		2階やテラス、近隣の公園等を活用しながら安全なスペースを確保している。	
	2 職員の配置数は適切である	○		他しあわせ駅からヘルプをいただき適切な配置数を確保している。	人事と連携を取りながら人材の確保を行っていく。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○	事業所内の職員でできる範囲内での改善を行っている。	構造上の問題で完全バリアフリー化は難しいが、施設の老朽化に合わせての修繕を行っていく。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		普段から職員間での意見交換を行い、児童の情報共有を行っている。	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		毎年評価表や要望表を参考にし改善に取り組んでいる。	
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ホームページにて公開している。	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		外部評価は行っていない。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		テーマを決めて事業所内研修を行うようにしている。	専門的な知識獲得や職員養成の為に様々な分野の研修を取り入れていきたい。
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		半年に1回のペースでアンケートと面談を組み合わせ各場面での状況把握を行い計画へ反映している。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		アセスメントツールを活用しながら保護者への丁寧な聞き取りを行っている。	
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		様々な意見を持ち寄って全体で話し合っ計画、実施を行っている。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		子ども達や保護者様からご意見をいただき、活動に反映するようにしている。	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している		○	子ども達の「やりたい」気持ちを尊重しながら無理なく取り組める遊びや教材を準備している。	個々の課題があるため、全体での課題を決められないことも多い。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		子どもの状況や保護者のニーズに応じて個別活動と集団活動を行っている。	
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		気候や子どもたちの状況に応じて臨機応変に計画や職員の役割について変更を行っている。	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		送迎終了後にその日の支援について話し合い、共通認識ができるようにしている。	
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		全体・児童一人ひとりの活動記録の記入を行い、支援の改善につなげている。	個別支援計画を職員の目につきやすいところに示し、職員が支援内容を意識しながら支援を行っていく。
18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している		○	職員全員で話し合うようにしている。	計画の見直しの判断というよりは現状についての対策を話し合うことが多いため、職員の支援のあり方についてモニタリングをすることが必要。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○		ガイドライン総則の基本活動に基づき、自立・創作・交流・余暇、複数組み合わせ合わせて支援を行っている。	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		基本的に児童発達管理責任者が参画している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		時間割やHPを確認し、送迎対応を行っている。	時間割の下校時間が変更になった際、連絡がなく送迎に影響することがあるため、学校や保護者との連絡調整は密に行う必要がある。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○	服薬やアレルギー情報は把握するよう努めている。	現在医療ケアが必要な児童が在籍していない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		○	問い合わせがあった際は見学対応を行っている。	就学前の様子や課題等を情報共有し、支援につなげる必要がある。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○		要望があった場合、これまでの支援内容等の情報共有を行う。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○	基幹相談主催の研修には参加した。	研修に参加し、参加した職員が研修内容について報告することにより職員全体の専門性の向上につなげていきたい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		公園遊び中に障がいのない子どもと関わる機会がある。地域のイベントに参加する機会を設けていきたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		○		参加の機会がない。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎時や電話等で情報共有をするようにしている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		育児への不安についての相談に対し、子どもの成長している姿についてお話ししたり、他児の成功例を示したりしながら助言を行っている。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		見学や契約時に丁寧な説明を意識している。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		相談には随時、傾聴・共感・助言・支援を行っている。状況によっては学校と連携し問題解決を図っている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		感染症の流行状況に合わせて実施を検討している。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情に対しては貴重なご意見と踏まえ真摯に受けとめ丁寧に対面での対応を行い職員全体で共通認識し改善に努めている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		今年度よりInstagram(SNS)での広報に切り替え、活動の様子やお知らせを発信している。	
	35	個人情報に十分注意している	○		個人情報保護規定に基づき、十分注意している	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		ジェスチャーや非言語コミュニケーションも工夫しながら意思疎通を行っている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		近隣の公園での活動の際などは、交流することもある。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		マニュアルを策定し、感染症対策のために、換気・消毒・手洗いなどを徹底している。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		年2回、避難訓練を行い、地震・火災・水害等の災害に備えている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		虐待防止研修を実施し、職員全体での周知徹底を行っている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		現在、身体拘束の必要性のある利用児はいないが、マニュアルの整備・職員間への周知等は行っている。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		保護者への聞き取りにてアレルギーの把握を行い、職員に周知している。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		事故や子どものケガに繋がりそうな事柄については、原因を明確にし、対策をとっている。	